

YAHOO!
JAPAN



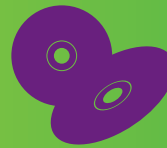
Yahoo! Beauty



Yahoo! Weather



Yahoo! Movies



Yahoo! Tickets



Yahoo! Sports



Yahoo! Gourmet



Yahoo! Shopping



Yahoo! Computers



Yahoo! Books



Yahoo! Travel



Yahoo! Auctions

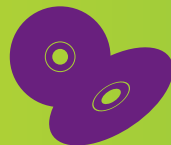
Yahoo! JAPANのサービスの一部を
シンボルイラスト化しています。



Yahoo! Sports



Yahoo! Mobile



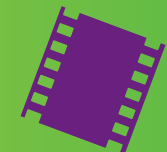
Yahoo! Beauty



Yahoo! Games



Yahoo! Weather



Yahoo! Music



Yahoo! Wedding



Yahoo! Tickets



Yahoo! Auctions



Yahoo! Blogs



Yahoo! Chat



Yahoo! Shopping



Yahoo! BB



Yahoo! Travel



Yahoo! Autos



Yahoo! Travel



Yahoo! Travel



Yahoo! Mobile



Yahoo! Music



Yahoo! Games



Yahoo! Games



Yahoo! Movies



Yahoo! Music



Yahoo! Music



Yahoo! Wedding



Yahoo! Auctions



Yahoo! Chat



Yahoo! Gourmet



Yahoo! Computers



Yahoo! Computers



Yahoo! Computers

VOL.12

ヤフー株式会社

'05 4/1 ~ '06 3/31

株主
通信



Yahoo! Blogs



Yahoo! Gourmet



Yahoo! Gourmet



Yahoo! Shopping

株主通信

Vol.12

2005年

4月1日

～2006年3月31日

目次

株主の皆様へ【社長対談 インタビュアー／塩田真弓】	2
CSR(企業の社会的責任)活動報告	9
事業部別概況	10
使ってみよう	14
連結貸借対照表	16
連結損益計算書	18
事業部別損益	20
連結キャッシュ・フロー計算書	21
社員インタビュー	22
株式情報	24
アンケート結果のご報告	26
会社沿革	27
会社概要	28
株主メモ	29

YAHOO!

【名：ヤフー】米国スタンフォード大学の学生だったジェリー・ヤン (Jerry Yang) とデビッド・ファイロ (David Filo) が始めたインターネットサービス。利用者からの大きな支持を得て1995年に法人化。現在は、検索サービスにとどまらずインターネット上であらゆるサービスを提供しており、インターネットの利用者にとってはなくてはならない存在に。Yahoo! という名前は、“Yet Another Hierarchical Officious Oracle” (もう一つの階層的で非公式な神託) の略だといわれていますが、ジェリーとデビッドの二人は自らを「ならず者」(yahoo) と称し、この名前を選んだと主張しています。

◆【語源】Yahooの語源は、スウィフトの「ガリバー旅行記」に登場する野蛮人の名前から。Yahooは、理性を持った馬に飼われる、人の形をした「野蛮の象徴」として風刺的に描かれています。

Yahoo! JAPAN

Yahoo! 検索エンジン Yahoo! 画像 Yahoo! 動画 Yahoo! 音楽 Yahoo! 天気 Yahoo! 辞書 Yahoo! 翻訳 Yahoo! 辞書 Yahoo! 辞書 Yahoo! 辞書

Yahoo! JAPAN 10周年

2006年4月1日、Yahoo! JAPANはサービス開始から10周年を迎えました。

国内の都市
札幌・仙台・さいたま・東京・千葉・川崎・横浜・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・福岡・広島・北九州・福岡

世界のYahoo!
アメリカ・カナダ・イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・韓国・中国・オーストラリア

もっとYahoo!
便利なツール: 読書、ツールバー、アカウント、ポイント、タビレットカード、ウェット、投票、ニュースレター、RSS
ビジネス: 企業ポータル、リサーチ、ウェブマーケティング、ドメイン、ビジネスエクスプレス

会社概要・投資家情報・社会的な取り組み・広告掲載について・スタッフ募集・Yahoo! カフェ・Yahoo! Internet Guide
利用規約・セキュリティの考え方・プライバシーの考え方・免責事項
Copyright (C) 2006 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.

株主の皆様へ

はじめに

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。
当社に対するご理解をより深めていただくために、今回はテレビ東京報道局経済部に在籍、IT産業はもとより多種多様な産業・経済分野の現場を継続的に自ら取材するキャスターとして活躍されている塩田真弓さんを迎えて、当社社長井上雅博との対談の機会を持ちました。ヤフーの現状や今後の事業展開などについて、ご理解を深めていただく一助となりましたら幸いです。



ヤフー株式会社代表取締役社長

井上雅博

社長
対談

テレビ東京報道局経済部キャスター

塩田真弓

今年4月、「Yahoo! JAPAN」サービス開始から10周年

塩田：まず、今年4月で「Yahoo! JAPAN」のサービス開始から10周年を迎えられたとのことですが、この10年間でインターネットの普及状況などはまさに激変したのではないのでしょうか。

井上：この10年間で何が一番変わったかといえば、「日本ではインターネットは流行らないのではないか」という人が今や完全にいなくなったということでしょうか（笑）。それほど今日、インターネットは日常的に利用されるようになり、

私たちの社会や暮らしにしっかりと浸透し定着しています。

塩田：インターネットがわずか10年でここまで広く普及、定着した要因は何だとお考えですか。

井上：それは、インターネットが「極めて便利」なものだからだと思います。便利なものだからこそ、誰もが利用するわけです。インターネットを使えば、今まで大変だったものが、いとも簡単にできるようになる。これまで不可能だったことが、可能になったりする。そうしたインターネットならではの利便性、機能、そして新たな可能性こそが、国内のインターネットの利用者が短期間のうちに7,900万人*を超えるまで急増した一番の要因でしょう。とりわけ、2000年以降のブロードバンドの急速な普及は、インターネットの接続・使用環境を大幅に整備、向上させるとともに、新規サービスの開発や提供を促進し、その結果として利用者層の飛躍的な拡大をもたらしたのだと考えています。

塩田：ヤフーにとって、この10年とこれからの10年はどのように位置付けられますか。

井上：ひと言でいえば、インターネット利用者の爆発的な急増に象徴されるように、この10年はまさに「量の拡大」であり、これはヤフーの成長にとって強力な追い風となりました。しかし、今後はそればかりに期待することはできません。な

※出典：総務省「平成17年版 情報通信白書」

ぜなら「量の拡大」にはいずれ、おのずと限界が訪れるからです。これから始まる次の10年に向けてヤフーが第一に考えていること、それは「質の向上」です。インターネットがもっと便利に、より安心して利用できるように、従来にも増して各種サービスの開発や提供に注力し、お客様一人ひとりの利用度を増やしていくことが、ヤフーの次の10年の最大の課題です。先般、ヤフーの創業者であり、当社の社外取締役でもあるジェリー・ヤンが来日し、10周年記念のスピーチを行ったのですが、そのなかで「インターネットが使われ始めて10年が経過した今、ここにきてようやく、インターネットが本当の意味でのメディアとして成長し、機能するようになってきた。大事な人や身近な人との日々のコミュニケーション、企業間における各種業務のやりとり、さらには様々なエンターテインメントを楽しむなど、今や日常に不可欠のメディアとなっている。その重要性と可能性はこれからますます高まっていくはず」と語っていましたが、そうしたインターネットのさらなる成長にしっかりと対応していきたいと思います。



2006年3月28日Yahoo! JAPAN 10周年記念会見にてジェリー・ヤン社外取締役

今後は次世代のインターネットサービスの開発・提供に注力

塩田：最近では、次世代のインターネットサービスを意味する「Web 2.0」という言葉をよく耳にするようになりましたが、今後のインターネットサービスはこの「Web 2.0」を中心に進んでいくのでしょうか。また、「Web 2.0」の可能性についてはどのようにお考えですか。

井上：インターネットが従来のメディアと異なる最大のポイントは、双方向性を持ったメディアであるという点です。例えば、ヤフーが一斉にニュースなどのコンテンツを配信するというやり方は、従来型メディアの手法であり、これ

はインターネットの可能性、特徴を生かした手法とはいえません。では、双方向性を持つインターネットならではの手法とは何か。その一つの答えが「Web 2.0」と呼ばれる次世代のインターネットサービスです。この「Web 2.0」はソーシャルメディアとも呼ばれ、その本質は「利用者自身がコンテンツを作り、メディアの担い手となる」という点にあります。インターネットの利用者が、それぞれ信頼できる、あるいは身近に感じる人たちと一緒に作り上げるコミュニティをベースにして、そのネットワークのなかでいろいろな情報を発信・共有していくというのが、ソーシャルメディアの基本的な姿であり、その土台となる各種コミュニティの形成の「場」を提供するとともに、その「場」におけるコンテンツの一定の品質を保つことが、インターネットサービス開発・提供者の役割となります。ヤフーにとっても「Web 2.0」は、今後のインターネットサービスの開発における重要なテーマの一つです。

塩田：ヤフーでは、今年4月に大幅な組織変更を行ったとのことですが、それはこうした次世代のインターネットサービスへの対応と関係があるのでしょうか。

井上：もちろんあります。今回の組織変更は、これからさらに力を入れて取り組みたいことが象徴的に表れていると思い



ます。その第1は「ソーシャルネット事業部」です。ヤフーではこれまでもコミュニティサービスなど「Web 2.0」の新しい流れを見据えた各種対応を図ってきていますが、さらにその対応を整理・強化すべく、同事業部を新設したわけです。ソーシャルネット事業部では、新サービス「Yahoo! 360°（仮名称）」※を中心に取り組むとともに、既存の80を超える各種サービスとの横断的・有機的リンクを積極的に推進していきます。第2は「地域サービス事業部」です。インターネットは今後、よりリアルな世界と融合し、より私たちの生活に密着していきます。その一つの切り口として、住んでいる地域や働いている場所などに関連した各種サービスの開発・提供がより重要になってくると考え、それらのサービス強化のために同事業部を新設しました。第3は「モバイル事業部」で、これはインターネットの利用が今後携帯電話などの各種モバイル端末においてますます広まっていくものと考え、事業部としてさらにその対応を強化しようというのが狙いです。

新たな期待が寄せられる 携帯電話事業

塩田：ソフトバンクがボーダフォンの日本法人を買収して携帯電話事業に参入します。これは経済分野では大事件ともい
※「Yahoo! 360°」については、22ページをご参照ください。

える出来事で、大きな話題となりました。ヤフーもソフトバンクと提携してこの買収に一部出資することになりましたが、その狙いは何でしょうか。

井上：インターネットにアクセスする道具としては、携帯電話は非常に便利なものです。日頃パソコンを使っている人でも、外出する際にパソコンを持ち歩く人はそれほど多くはありませんから、自宅やオフィスではパソコンで、外出時は携帯電話でインターネットを利用するという人が圧倒的に多いと思います。しかし、携帯電話でインターネットを利用する環境は、残念ながら、現在は十分に整っているとはいえないと思います。

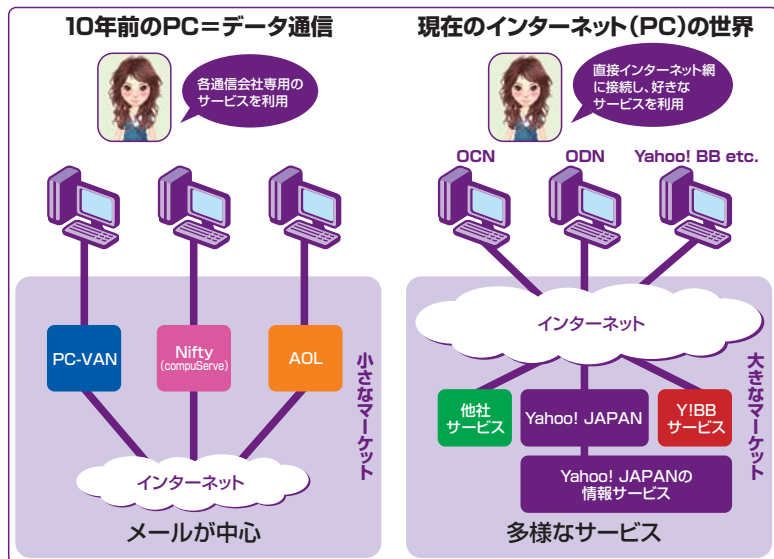


塩田：具体的には、それはどういうことですか。

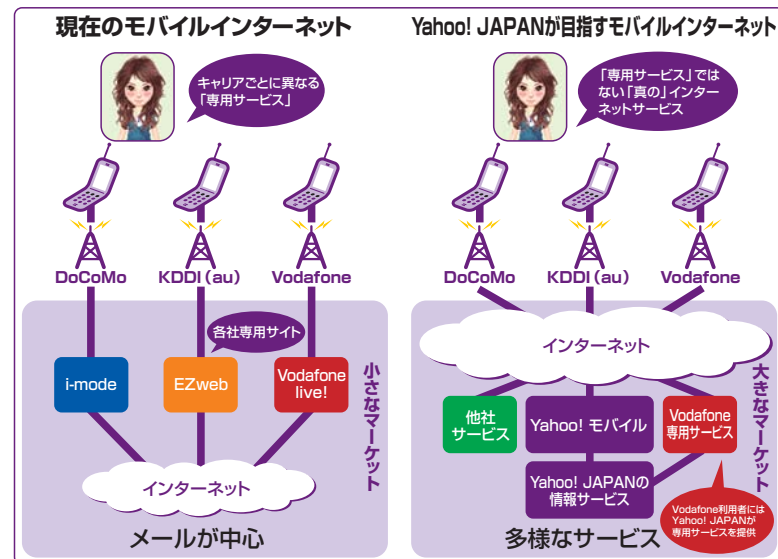
井上：ご存じのように、多くの携帯電話向けインターネットサービスは、電話会社ごとに構築され、使える端末の機種も限られています。パソコンにおいても、インターネットが登場するまでは、端末のメーカーごとに仕切られた、いわば閉じた世界でのパソコン通信というネットワークがありました。現在の携帯電話のインターネットサービスはまさにその当時のパソコン通信と同じく閉じられた状態といえるのです。つまり、

本当の意味での「便利さ」はまだ携帯電話においては実現されていないということです。ヤフーでは、ハードウェア端末への参画を通じ、携帯電話におけるオープンなインフラの整備を図ることで、それを実現したいと考えているわけです。すでに「Yahoo! モバイル」では50を超える当グループのサービスを提供しており、大変多くのアクセスをいただいておりますが、今後さらにインターネット利用者がより積極的にモバイルを使えるように、力を入れていきたいと考えています。

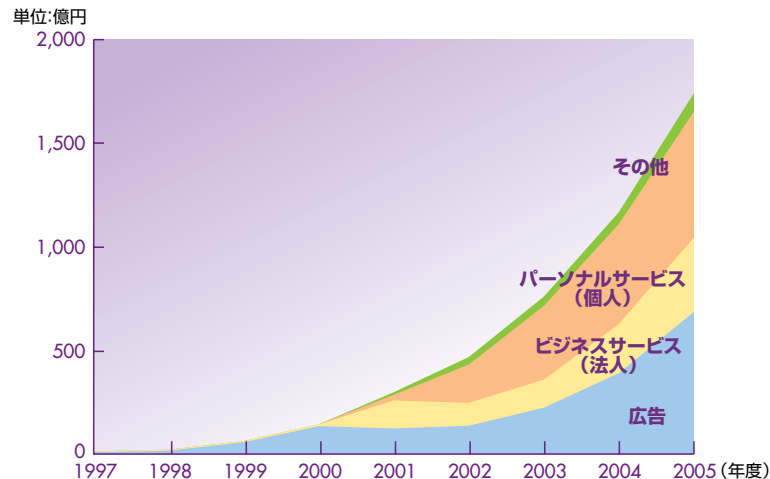
PCインターネットの10年前と今



モバイルインターネットの今と将来



収益源別売上構造



2005年度売上高前年比1.5倍、 経常利益前年比1.3倍に

塩田：2005年度の業績を振り返って、この1年をどのように評価されていますか。

井上：2005年度通期の売上高は、1,736億円と前年比約1.5倍、営業利益は821億円で前年比約1.4倍、経常利益は798億円で前年比約1.3倍、当期純利益は470億円で前年比約1.3倍になりました。売上の内訳を見ると、広告売上が684億円と前年比で76%伸びました。広告以外の法人向け

サービスの売上は358億円、個人向けサービスの売上は605億円とそれぞれ好調に推移し、収益構造としては引き続きバランスよく伸びていると思います。

塩田：広告売上が過去最高を更新するなど依然として高い伸びを示していますが、今後のインターネット広告市場はどのくらい成長、拡大余地があるのでしょうか。

井上：テレビや新聞など各メディアにおける広告の市場規模は、そのメディアにおける接触者数によって決まります。新聞が約5,000万人といわれ、その広告の市場規模が約1兆円ということですから、同じ規模の利用者数を有するインターネットの広告市場も近いうちに1兆円を超えるというのが私の持論です。昨年のインターネット広告市場が2,800億円ですから、まだまだ伸びていくと思います。

2005年広告市場媒体別内訳

テレビ	2.04兆円
新聞	1.03兆円
雑誌	0.39兆円
インターネット	0.28兆円
ラジオ	0.17兆円
SP (販売促進) 広告	1.98兆円
合計	5.96兆円

出典：(株)電通

塩田：ところで、銀行業への取り組みとしては、三井住友銀行グループとの提携を発表していますが、ヤフーの利用者にとっては何が便利になるのでしょうか。

井上：ヤフーの提供する各種サービスと、それぞれのサービスにおける決済の部分は現在、分離された状態にあります。これはお客様の立場からすると、やはり不便さを感じる部分であろうと思います。それを解消すべく、便利で安全な決済環境を整備してお客様の利便性を高め、「Yahoo!オークション」や「Yahoo!ショッピング」をはじめとしたサービスの利用拡大を図っていくというのがヤフーの狙いです。

お客様第一に “質の10年”を目指す

塩田：最後に、ヤフーにおける今後の目標、課題は何ですか。

井上：ヤフーでは、次の新しい10年に向けて、従来にも増して力強く前進していきます。先ほどお話ししたとおり、過去の10年は量の拡大でしたが、これからは質の向上を目指して「質の10年」にしたいと考えています。提供する各種サービスの内容を高め、信頼性の向上に全力で努めていくことによって、ヤフーのさらなる成長、飛躍があると信じているからです。インターネットをより一層信頼されるメディアにしていくことは、ヤフーが果たすべき社会的使命であると考えています。今後とも常にお客様第一に、お客様に安心して便利なサービスを提供できるよう取り組んでいきます。ヤフーの新しい10年にぜひ期待してください。

PROFILE

塩田 真弓 (しおた まゆみ)

1999年、アナウンサーとして(株)テレビ東京に入社。同局の看板経済報道番組「ワールドビジネスサテライト」の取材・レポートなどを担当。元々記者志望であったため2002年、報道局経済部に異動。現在、「WBS土曜版」を担当、メインキャスターとして活躍中。



PROFILE

井上 雅博 (いのうえ まさひろ)

1957年 2月12日生まれ
1979年 4月 (株)ソード電算機システム入社
1987年11月 (株)ソフトバンク総合研究所入社
1992年 6月 ソフトバンク(株) 入社
1994年 1月 同社社長室・秘書室長
1996年 1月 ヤフー(株) 設立、取締役就任
1996年 7月 ヤフー(株) 代表取締役社長就任



CSR(企業の社会的責任)活動報告

当グループはインターネット企業として、インターネット社会の安全で健全な発展を目指して、インターネットを活用した社会貢献活動を積極的に行っています。

当グループの社会貢献活動は、「社会的な取り組み」からご覧いただけます。—— <http://forgood.yahoo.co.jp/>



2005年度のトピックス

1 インターネット募金

いつでもインターネット上で募金ができる「インターネット募金」を2005年6月より常設しています。パキスタン地震やフィリピン地滑り災害被災者救護のための募金、あしなが育英会の「あしながさん奨学金」、「レッドリボン特集」と連動させた「日本エイズストップ基金」など、2005年度で計15件のインターネット募金を実施しました。

2 Yahoo!基金

Yahoo! JAPAN創立10周年を機に、社会貢献事業のさらなる展開を目指して「Yahoo!基金」を2006年4月に設立しました。Yahoo! JAPANからの資金拠出やYahoo! JAPANをご利用くださるお客様からのご寄付をもとに、「インターネット社会の安全で健全な発展」のために活動するNPOへの助成支援と緊急災害支援を活動の柱として進めていきます。



3 チャリティーオークション

「Yahoo!オークション」において、著名人やスポーツ選手の方々に多数のご協力をいただきながら継続的にチャリティーオークションを開催し、その落札金額は全額寄付しています。2005年度は、NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)への寄付を目的として福岡ソフトバンクホークスの選手によるオークションや、日本パラリンピック委員会への寄付を目的にバレーボール選手のサイン入りアイテムなどのオークションが開催されました。2005年に実施されたチャリティーオークションは累計1,174件、寄付金額は1億5,855万9,652円となりました。

4 スポーツ文化の振興・発展への貢献

スポーツの素晴らしさを考え確認しあう機会を提供し、日本のスポーツ文化の振興・発展に貢献するため、トリノオリンピック・トリノパラリンピック日本選手団を応援する特設サイトを公開しました。また、日本における障害者スポーツへの理解・親しみを深めることを目的に、障害者スポーツに関する豊富な情報やインタビューなどを提供しました。Yahoo! JAPANは2005年11月に国際パラリンピック協会が主催する「パラリンピックメディア大賞2005」のオンライン部門賞を受賞しました。今後も当グループは、インターネットサービスを通じて日本の障害者スポーツの発展にも貢献したいと考えています。

事業部別概況 ①

リスティング事業部

検索サービスでは、「Yahoo!検索」の検索結果表示を刷新し、ロボット検索の結果を優先で表示する仕様へ変更したほか、急速に普及する膨大なブログの中から、自分の興味や関心のある記事をまとめて探せる「Yahoo!ブログ検索」（ベータ版）の提供を開始しました。情報掲載サービスでは、豊富な写真や大きな間取り図で新築物件情報を見やすくするなど

「Yahoo!不動産」を大幅にリニューアルしました。地域情報サービスでは、「Yahoo!地図情報」において航空写真対応のスクロール地図機能を追加したほか、PC版に登録されている地図を携帯電話の機種にあわせ無料で表示するモバイル版の提供を開始するなどサービスの拡充を図りました。



※ロボット検索とは、ロボットと呼ばれるプログラムがインターネット上を巡回、あらゆるウェブサイトをデータベースに登録し、このデータベースを対象に検索を行うことです。

オークション事業部

季節に合わせた様々な販促企画やオークションストアによるバーゲンセールを行ったほか、初心者が気軽に入札体験できる「お試し版Yahoo!オークション」を開始するなど、利用の拡大を図りました。「Yahoo!かんたん決済」では、利用可能な金融機関の拡大やモバイル版の提供を開始するなど、利便性を高めました。また、24の自治体による不動産インター

ネット公売や、財務省主催の「第1回近代金貨インターネットオークション」を実施するなど、インターネットの公共利用の拡大に努めました。更に、犯罪捜査にも活用されている技術を応用したオークションの不正利用を検知する仕組みを構築し導入するなど、より多くの方が安心して「Yahoo!オークション」を利用できるよう更なる対策に取り組みました。



※公売とは、各行政機関が税金などの滞納者から差し押さえた財産を公に売却してそれを財源に充てることを指します。「Yahoo!オークション」は2004年7月に東京都主税局と日本で初めてインターネット上での公売を実施しました。

Yahoo! BB事業部

新規会員獲得のための各種キャンペーンを行い会員数の増加に努めました。また、既存会員に対しても会員限定で、人気アーティストのライブや新作映画の記者会見の生中継、オンライン試写会などを配信したほか、「Yahoo!ショッピング」や「Yahoo!オークション」などと連携した会員限定キャンペーンを実施する

など会員価値の向上を図りました。「Yahoo!メール」においては、ウイルスチェックや迷惑メール対策などセキュリティ対策を強化したほか、携帯電話からの利用機能も拡充するなど、更に安心・快適なサービスの提供に努めました。



メディア事業部

ソフトバンク(株)との共同出資によりTVバンク(株)の運営が開始され、動画コンテンツサービス事業が強化されたこととともない、「Yahoo!動画」を動画コンテンツのポータルとしてリニューアルし、サービスの拡大に努めました。また、NHKのドラマの特集サイトを開設するなど、既存メディアと連携した企画への取り組みを強化したほか、「Yahoo!ミ

ュージック」においては、「Yahoo!ミュージック サウンドステーション」を公開し注目を集めました。更に、無料のソーシャル・ネットワーク・サービス「Yahoo! 360°(仮名称)」(ベータ版)の提供を開始しました。有料コンテンツでは、「Yahoo!占い」「Yahoo!コミック」の内容を更に充実させるなど、売上拡大に努めました。



※動画コンテンツとは、ウェブ上で見ることができる、ニュース、映画、アニメやビデオカメラで撮影したものなどの動きのある画像の総称です。

事業部別概況 ②

ショッピング事業部

代理店との協力体制を強化するとともに出店ストアに対するコンサルティングや効果的なストア構築の提案などを行った結果、2006年3月末現在でストア数は9,445店舗となり、2005年3月末に比べて4,850店舗（105.5%増）増加しました。また、季節に合わせた販促企画、「Yahoo!ポイント」を活用したキャンペーンを多数実施するなど、利用の拡大に努めました。更

に、携帯電話から商品を購入することができる「モバイル版 Yahoo!ショッピング」を開始するなど、モバイルへの取り組みも推進しました。「Yahoo!トラベル」では、(株)リクルートとインターネットにおける旅行関連サービスを共同で開始したほか、JALグループと包括提携契約を締結し、同グループの国内航空券の取り扱いを開始するなど、サービスの拡充を図りました。



ビジネスソリューション(BS)事業部

(株)インフォプラントを子会社化しインターネット調査事業の拡張に努めたほか、営業力を強化し「Yahoo!リサーチ」の販売に注力しました。また、大規模モニターの需要に対応するべく、「リサーチ・モニター・ライト」の募集を開始し、2006年3月末の登録モニター数は合計で107万人となりました。ドメイン・ホスティングサービスでは、ファーストサー

バ(株)との協業体制の確立に注力したほか、低価格・高信頼性を目指したサービスの開発を行い、顧客数の増加に努めました。ポータルサイトの構築支援サービスでは、(株)日立製作所と共同で自治体向けポータルサイトの提案を行うなど、引き続き提案活動に積極的に取り組みました。



※ドメイン・ホスティングサービスでは、主に中小企業向けとして、独自のアドレスでホームページやメールアドレスを作成できるサービスや、自社のホームページの閲覧状況をグラフで簡単に確認できるサービスなどを提供しています。

全社共通事業

全社共通事業は、当社サービスの顔とも言うべきYahoo! JAPANトップページ等への広告掲載売上や、当社の様々なサービスに係る「Yahoo!プレミアム」の売上などを、各事業部の売上および費用に配賦するのではなく、当社のブランドそのものを形成する「全社共通事業」の

損益とし、これに本社の損益を合算しています。「Yahoo!プレミアム」会員数の増加と会員サービスの拡充に努めた結果、2006年3月末のYahoo!プレミアム会員ID数は615万IDとなり、2005年3月末と比べて108万ID(21.2%増)増加しました。



2006年4月1日付 組織変更について

(組織図は28ページをご参照ください。)

当社が提供する全てのサービスを市場環境の変化に合わせて再編し、戦略的に重要な分野を独立させて人的リソースを再配分するとともに、より迅速な意思決定を行うため、2006年4月1日付で大幅な組織変更を実施いたしました。特に、今後更に強化すべき分野として、従来の事業部に加えて、

- お客様がより積極的に情報の発信者になっていけるようなコミュニティの場を提供する **ソーシャルネット事業部**
- インターネットをPC以外のデバイスからも広く使えるようにすることを目的とする **モバイル事業部**
- 地域生活に役立つサービスを提供する **地域サービス事業部**

などを新設いたしました。また、適法かつ適正なコーポレートガバナンスをより一層強化するため、**内部統制室**を新設いたしました。インターネットの分野では、日々さまざまなアイデアや技術などが生まれていますが、当社においても、より革新的なサービス展開を推進し、お客様の満足度を高め、更なる事業の発展を目指します。

使ってみよう Yahoo!動画

2005年12月、当グループはソフトバンク(株)との共同出資により、TVバンク(株)の事業運営を開始しました。これにより、「Yahoo!動画」は無料を中心とした約10万本の動画コンテンツのポータルとなりました。当グループでは、今後も各種サービスをさらに便利なものにし、顧客満足度を高めることで、より一層の収益拡大を目指していきます。

「TVバンク」とは・・・

ソフトバンクグループとしての動画コンテンツサービス事業を強化するため、ソフトバンクとヤフーの動画コンテンツサービス事業に関わる人材とノウハウをTVバンク(株)へ集約します。同社は、動画コンテンツの調達、動画配信および動画検索システムの開発・運用、サービス画面の制作・運用等を行います。

HOW TO アクセス



こんな方法でもアクセスできます。

- Yahoo! JAPANの検索で“動画!”と入力し、検索
- アドレスバーに以下のURLを入力し、実行
<http://streaming.yahoo.co.jp/>

無料チャンネルの紹介(一部) ※2006年4月現在配信



音楽

SPITZ SONG MOVIE「海ではなし。」
©2006「海ではなし。」製作委員会



映画・ドラマ

「いちばん暗いのは夜明け前」
©2006 For-side.com CO., LTD.



アニメ

「銀色の髪のアギト」
©GONZO/銀色の髪のアギト製作委員会



音楽

「スキマスイッチ」特集
©BMG JAPAN



ニュース・天気

タ刊フジTV
©タ刊フジ・モバイル放送・IMAGICA ディーシー21

この他、 「Yahoo!動画」では…

- 毎回いろいろなテーマに基づいた『投稿動画コンテスト』
- JJ・オスカープロモーションと協力し、インターネット時代に活躍するスターを発掘する『インターネット美女コンテスト』など
お客様参加型のコンテンツもお楽しみいただけます。



スポーツ

福岡ソフトバンクホークス主催試合のライブ配信
©Fukuoka SoftBank HAWKS Corp. All Rights Reserved.



お笑い

「ワタナベエンターテインメントクロニクル」
©ワタナベエンターテインメント

当グループでは、今後もコンテンツパートナーや広告会社の協力を得ながら、「Yahoo!動画」をはじめとする動画コンテンツサービスを次世代の主力事業の一つへと発展させて参ります。

※「Yahoo!動画」で提供するコンテンツは、無料と有料があります。

連結貸借対照表

POINT ①

現預金は、主に営業活動による収入の増加により980億円（前期比 42.1%増）となりました。

POINT ②

受取手形及び売掛金は、主に広告売上および法人向け売上の増加により252億円（前期比 37.8%増）となりました。

POINT ③

有形固定資産は、主にサーバー等の設備の増加により140億円（前期比 18.0%増）となりました。

POINT ④

投資その他の資産は、主に関連会社株式の取得および投資有価証券の時価評価により330億円（前期比 62.1%増）となりました。

資産の部

主な科目

前期 [2005年3月31日現在] 当期 [2006年3月31日現在]

主な科目	前期 [2005年3月31日現在]	当期 [2006年3月31日現在]
流動資産	92,410	132,188
現預金	68,992	98,038
受取手形及び売掛金	18,293	25,213
短期貸付金	2,263	3,656
その他	4,226	7,085
貸倒引当金	▲ 1,364	▲ 1,805
固定資産	37,833	58,785
有形固定資産	11,875	14,015
無形固定資産	5,563	11,702
投資その他の資産	20,393	33,067
資産合計	130,244	190,974

(単位:百万円)

負債の部		
主な科目	前期	当期
	[2005年3月31日現在]	[2006年3月31日現在]
流動負債	31,564	45,489
買掛金	1,228	889
未払金	7,618	12,418
未払法人税等	16,676	23,484
その他	6,041	8,696
固定負債	2,158	1,663
負債合計	33,723	47,152
少数株主持分		
	461	1,367
資本の部		
資本金	6,692	7,032
資本剰余金	1,773	2,113
利益剰余金	83,461	126,737
その他有価証券 評価差額金	4,161	6,597
為替換算調整勘定	—	1
自己株式	▲ 27	▲ 28
資本合計	96,059	142,455
負債・少数株主持分 及び資本合計	130,244	190,974

POINT…………… ⑤

買掛金は、主にセブンアンドワイ(株)の株式を一部売却し、連結子会社から除外したことにより8億円(前期比 27.6%減)となりました。なお、セブンアンドワイ(株)は持分法適用会社となっています。

POINT…………… ⑥

未払金は、主に営業費用の増加およびサーバー等の設備の増加により124億円(前期比 63.0%増)となりました。

POINT…………… ⑦

資本金は、ストックオプションの行使により70億円(前期比 5.1%増)となりました。

POINT…………… ⑧

利益剰余金は、利益の増加により1,267億円(前期比 51.9%増)となりました。

POINT…………… ⑨

その他有価証券評価差額金は、主に投資有価証券の時価評価により65億円(前期比 58.5%増)となりました。

連結損益計算書

POINT ①

販管費は、787億円（前期比61.8%増）となりました。
主な販管費は以下のとおりです。

- ・人件費が147億円（前期比54.5%増）
- ・業務委託費が109億円（前期比68.2%増）
- ・減価償却費が66億円（前期比49.3%増）
- ・通信費が56億円（前期比37.1%増）

POINT ②

営業外損益は、-22億円となりました。
営業外収益の主なものは、Yahoo! BB事業に関するファイナンススキームに係る受取利息、営業外費用の主なものは、持分法による投資損失、固定資産除却損などです。

POINT ③

特別損益は、9,600万円となりました。
特別利益の主なものは、投資有価証券売却益、特別損失の主なものは、連結調整勘定の償却額および業務提携解消にともなう費用です。

科目

売上高

売上原価

販売費及び一般管理費

営業利益

営業外損益

経常利益

特別損益

法人税等・その他

当期純利益

(単位:百万円)

前期 [2004年4月1日~ 2005年3月31日]	当期 [2005年4月1日~ 2006年3月31日]
117,779	173,695
8,931	12,843
48,660	78,719
60,187	82,133
108	▲ 2,265
60,295	79,867
435	96
24,209	32,872
36,521	47,090

2006年4月20日におこなった決算説明会が動画でご覧いただけます。

アクセス方法:

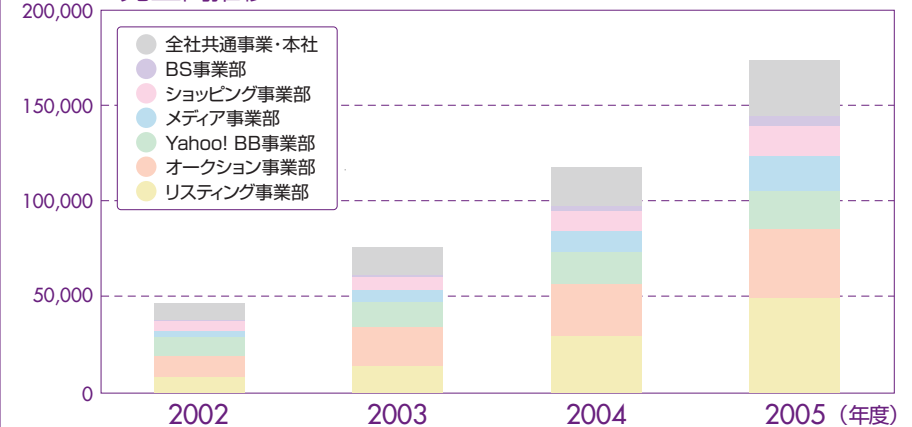
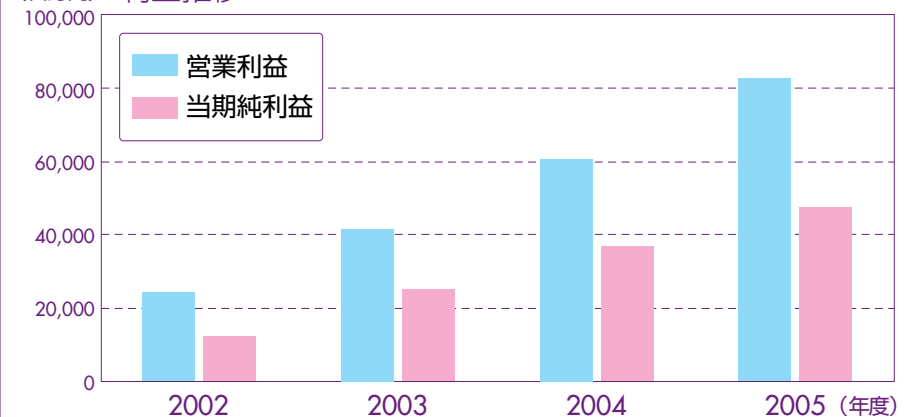
Yahoo! JAPAN トップページの一番下にある**投資家情報**から

IRイベントスケジュール

→ 2005年度 第4四半期および通期

→ 決算説明会へのリンク

<http://ir.yahoo.co.jp/jp/event/meeting/20060420.html>

POINT ④**売上高推移****POINT ⑤****利益推移**

(注) 2003年度より売上等の計上方法を変更しています。2002年度の数字は、2003年度より導入された計上方法に従って遡及修正して表示していますのでご注意ください。

事業部別損益

当期(2005年4月1日～2006年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	売上原価	売上総利益	販売費及び一般管理費	営業利益	売上高営業利益率
リスティング事業部	49,561	1,139	48,422	11,086	37,336	(75.3%)
オークション事業部	35,986	39	35,946	14,478	21,468	(59.7%)
Yahoo! BB事業部	19,484	1,062	18,422	10,745	7,676	(39.4%)
メディア事業部	18,366	538	17,828	10,248	7,580	(41.3%)
ショッピング事業部	15,962	7,378	8,584	6,839	1,745	(10.9%)
ビジネスソリューション(BS)事業部	5,109	2,088	3,020	3,503	▲ 482	(▲ 9.4%)
全社共通事業・本社	29,223	596	28,626	21,817	6,809	(23.3%)
合計	173,695	12,843	160,852	78,719	82,133	(47.3%)

各事業部の主な売上

リスティング事業部	広告売上、「ビジネスエクスプレス」、「Yahoo!リクナビ」「Yahoo!自動車」等の情報掲載料
オークション事業部	「Yahoo!オークション」のシステム利用料、ストアの登録料・基本手数料・手数料
Yahoo! BB事業部	「Yahoo! BB」の顧客獲得インセンティブ、ISP料金
メディア事業部	広告売上、有料コンテンツ売上
ショッピング事業部	「Yahoo!ショッピング」のテナント料・手数料、セブンアンドワイ(株)による物販売上
ビジネスソリューション(BS)事業部	「Yahoo!リサーチ」、「Yahoo!ウェブホスティング」等による売上
全社共通事業・本社	Yahoo! JAPAN トップページ等への広告掲載売上、「Yahoo!プレミアム」の売上

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2004年4月1日~ 2005年3月31日	2005年4月1日~ 2006年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	46,083	59,604
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 17,119	▲ 27,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	384	▲ 3,028
現金及び現金同等物の増加額	29,348	29,043

POINT ①

税金等調整前当期純利益が799億円。
法人税等の支払により288億円減。
売掛金の増加により63億円減。

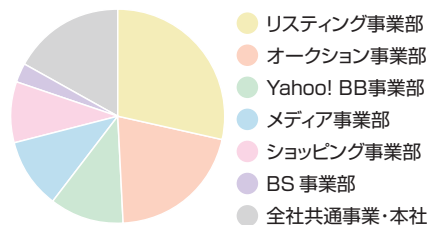
POINT ②

関連会社株式の取得により152億円減。
サーバー等の設備およびオフィス増床にとも
なう設備の取得により72億円減。

当期の連結ベースの売上高の内訳は以下の通りです。

売上高の内訳	金額(百万円)	売上高に占める割合
リスティング事業部	49,561	28.5%
オークション事業部	35,986	20.7%
Yahoo! BB事業部	19,484	11.2%
メディア事業部	18,366	10.6%
ショッピング事業部	15,962	9.2%
ビジネスソリューション(BS)事業部	5,109	2.9%
全社共通事業・本社	29,223	16.9%
合計	173,695	100.0%

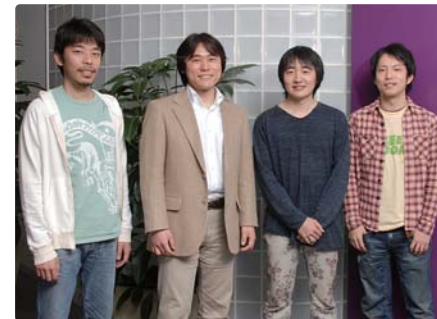
売上高構成比率



社員インタビュー

新しいよりリアルなヒューマン・コミュニケーションライフを
提案・実現する「Yahoo! 360° (仮名称)」

“居心地のよさ”というコンセプトから生まれた、無料登録制のソーシャル・ネットワーキング・サービス「Yahoo! 360°」。今回は、“多くの人が気軽に安心して参加でき、誰もが思い思いにコンテンツを持ち寄って楽しめる場”を創造・提供する、今年4月に新設されたソーシャルネット事業部の主要メンバーに話を聞きました。



新しいコミュニティサービスの登場

Yahoo! JAPANでは、新サービスとして今年2月下旬から無料登録制のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)「Yahoo! 360°」の試験運用を開始しました。また、今年4月、「Yahoo! 360°」を含むコミュニティサービスを強化するため、新たに「ソーシャルネット事業部」が設置されました。

新サービス「Yahoo! 360°」が提供するの、信頼できるあるいは身近に感じる人たちと一緒に作り上げるコミュニティによる、新しいよりリアルなコミュニティサービスです。「Yahoo! 360°」は、現実社会とのリアルなコミュニケーションを可能にするヒューマン・ネットワークの「場」を創造・提供し、また、利用者自身が安心して情報を発信できる新しいネットワークサービスの構築を目指しています。

「Yahoo! 360°」の基本コンセプトは“居心地のよさ”

ウェブ上のコミュニケーションにおいては現在、よりリアルなコミュニケーション、よりリアルな人間関係が強く求められるようになってきています。つまり、オンライン（ウェブ上）とオフライン（現実社会）の融合による、リアルさの追求です。不特定多数の人たちが参加する「場」ではなく、参加者の招待を受けた人や本人確認の取れた人が集まる「場」の提供。それが“居心地のよさ”を基本コンセプトとする「Yahoo! 360°」なのです。「Yahoo! 360°」がなぜあえて登録制を採用しているのか、なぜ無



「Yahoo! 360°」

料なのか。それはすべて、多くの人が気軽に安心して参加でき、誰もが思い思いにコンテンツを持ち寄ってよりリアルなコミュニケーションを楽しめる、居心地のいい「場」を創造・提供するためにほかなりません。

「Yahoo! 360°」に各種既存サービスを有機的にリンク

「Yahoo! 360°」が提供する「場」の最大の特長は2つあります。第1に、利用者自身が発信する情報の公開範囲を自由に設定できること。つまり、見せたい人だけに自分の日記やコメント、写真、メッセージなどを公開することができます。第2に、自分のページを見に来た人がわかること。誰が自分のページを見に来たかを確認できる「足あと機能」で、それをきっかけに新たな人とのコミュニケーションが可能になります。もちろんこのほかにも、複数の友人・知人全員に一度にメッセージが送信・返信でき、気軽に楽しくコミュニケーションがとれるなど、いろいろなことができます。ソーシャルネット事業部では、Yahoo! JAPANが提供する80を超える各種サービスを「Yahoo! 360°」と横断的・有機的にリンクさせ、利用者がもっと便利に楽しく利用できるよう現在、全力で各種の企画・開発を進めています。

ソーシャル・ネットワークの可能性は無限

これからのウェブ上でのよりリアルなヒューマン・コミュニケーションにおいて、信頼性の担保とプライバシーの保護は

極めて重要なキーワードであり、それを具現化していくのがソーシャルネット事業部、そして「Yahoo! 360°」の役割であると私たちは考えています。

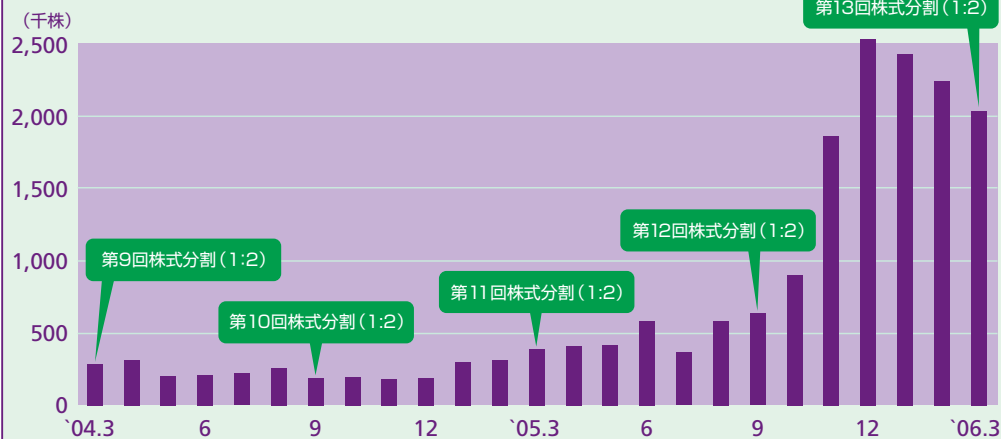
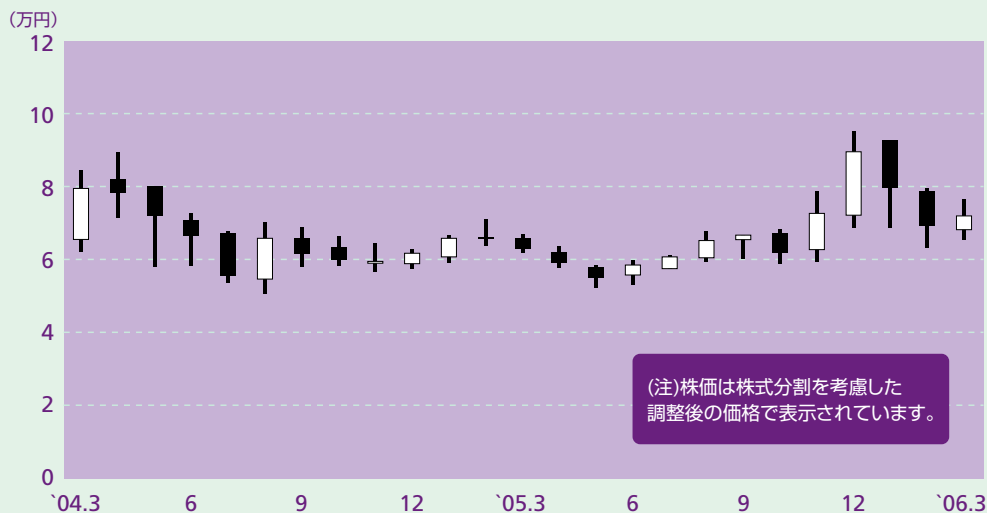
ソーシャルネット事業部では現在、「Yahoo! 360°」をはじめアバター、ブログ、掲示板など各種のサービスを手がけていますが、今年2月以降、すでに大きな手応えを感じ取っています。ソーシャル・ネットワークの可能性はいま無限に広がっており、その開発はこれからが本番です。私たちソーシャルネット事業部では、今後とも“お客様第一主義”のもと、質とスピードを常に重視しながら、新しい各種サービスを積極的に開発・提供していきたいと考えています。立ち上がったばかりの事業部ですが、これからの私たちの取り組みと成果にぜひ期待していただきたいと思います。



株式情報

(2006年3月31日現在)

株価チャート(月足)・出来高



発行済株式の総数

30,226,068株

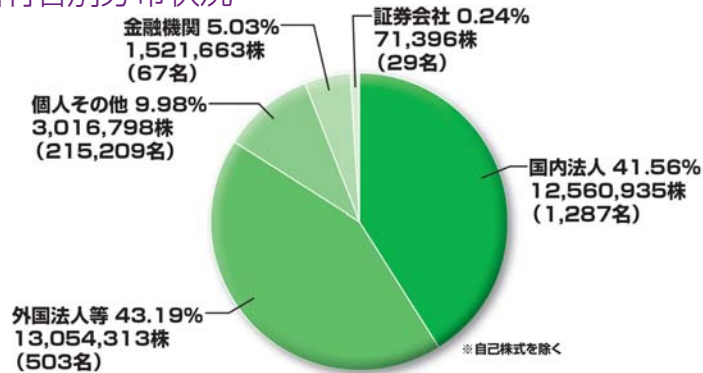
株主数

217,096名

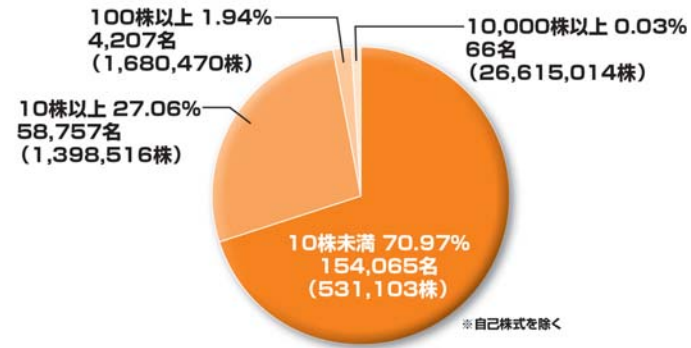
主要株主一覧

株主名	持株数(株)	持株比率
ソフトバンク株式会社	12,426,912	41.1%
ヤフーインク	10,107,704	33.4%
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	766,176	2.5%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	382,240	1.3%
ユービーエスエージーロン ドンアイビーピークライアント アカウント	336,000	1.1%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	322,612	1.1%
三菱UFJ信託銀行株式会社 (信託口)	192,446	0.6%
ザチエスマンハットン バンク385036	181,746	0.6%
ザチエスマンハットン バンクエヌエイロンドン	172,598	0.6%
日本証券金融株式会社	133,263	0.4%

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



資本金・株式数の推移

年月	資本金(百万円)	資本剰余金(百万円)	発行済株式数(株)	摘要	
1996年 1月	200	0	4,000	会社設立	
1997年 9月	290	0	5,800	有償株主割当(1:0.45)	
1997年 11月	434	500	6,775	公開時公募	
1999年 3月	1,442	1,507	6,900	公募	
1999年 5月	1,471	1,538	13,822	第1回株式分割(1:2)	割当基準日1999年3月31日
1999年 11月	1,501	1,556	27,826	第2回株式分割(1:2)	割当基準日1999年9月30日
2000年 3月	1,556	5,137	28,954	ジオシティーズ(株)、ブロードキャスト・コム(株)合併	
2000年 5月	2,897	3,798	57,940	第3回株式分割(1:2)	割当基準日2000年3月31日
2000年 9月	2,959	3,913	58,167	ピー・アイ・エム(株)合併	
2000年 11月	5,964	1,067	116,917	第4回株式分割(1:2)	割当基準日2000年9月30日
2002年 5月	6,072	1,154	235,095	第5回株式分割(1:2)	割当基準日2002年3月31日
2002年 11月	6,073	1,154	471,059	第6回株式分割(1:2)	割当基準日2002年9月30日
2003年 5月	6,073	1,154	942,118	第7回株式分割(1:2)	割当基準日2003年3月31日
2003年 11月	6,217	1,298	1,884,964	第8回株式分割(1:2)	割当基準日2003年9月30日
2004年 5月	6,429	1,510	3,772,372	第9回株式分割(1:2)	割当基準日2004年3月31日
2004年 11月	6,523	1,604	7,546,778	第10回株式分割(1:2)	割当基準日2004年9月30日
2005年 5月	6,715	1,796	15,101,061	第11回株式分割(1:2)	割当基準日2005年3月31日
2005年 11月	6,849	1,830	30,212,920	第12回株式分割(1:2)	割当基準日2005年9月30日
2006年 4月	7,053	2,134	60,455,172	第13回株式分割(1:2)	割当基準日2006年3月31日

(注) ストックオプション等の行使による変動については、少額であるため表示しておりません。

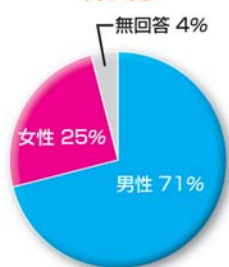
株主通信VOL.11アンケート結果のご報告

前回、株主通信VOL.11にてお願いいたしましたアンケートでは、多くの株主の皆様からご協力をいただき、誠にありがとうございました。アンケートの結果および数多くお寄せいただいたご意見、ご要望などについてご報告申し上げます。

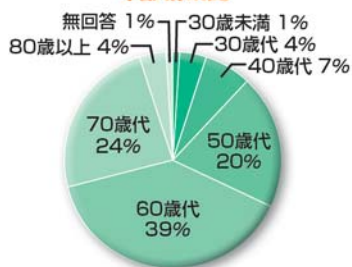
アンケート結果

① 株主様の属性について

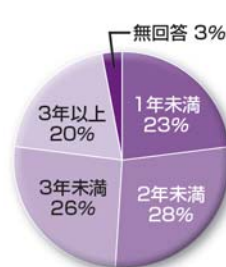
男女比



年齢構成比



② 当社株式保有期間



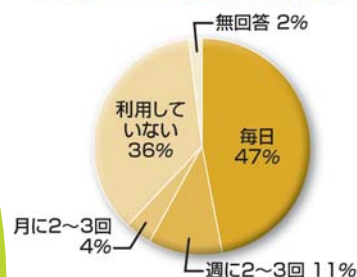
③ 当社株式購入の際に重視されたことベスト5

- 1位 —— 成長性
- 2位 —— 株式分割
- 3位 —— 長期的な値上がり
- 4位 —— 収益性
- 5位 —— 業界シェア

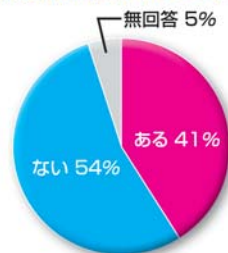
④ 興味を持たれた記事ベスト5

- 1位 —— 株式情報
- 2位 —— 株主の皆様へ
- 3位 —— 財務諸表
- 4位 —— 事業部別概況
- 5位 —— アンケート結果

⑤ インターネットのご利用状況



⑥ 当社のIR(投資家情報)サイトをご覧いただいたことが



数多くいただいたご意見、ご要望などの中からその一部をご紹介します。
貴重なご意見をいただきありがとうございました。

- 株価対策のためにも、更に積極的なIR活動に取り組んでほしい。
- 新規事業に関心があるので、もっと詳しく伝えるようにしてほしい。
- 株主への利益還元に重点を置いた経営を期待する。
- 長期的な発展や成長を望む株主に対して、もっと経営ビジョンを明確にアピールしてほしい。
- 株主通信では、専門用語の使用を避けて分かりやすい言葉を使うようにしてほしい。
- ヤフーのサービスは便利で安全という基本をいつも忘れないようにすること。
- 会社にとってのリスクやマイナス面についてもしっかり説明するべきである。
- 話題性に欠けるようになった。トップに甘んじることがないように、成長こそヤフーである。
- これからはシニア世代に合ったサイトやサービスを提供してほしい。
- 紙メディアでのIR活動も必要だが、コストのかけすぎには注意が必要である。

会社沿革

1996年 1月	インターネット上の情報検索サービスの提供を行うことを目的として、ヤフー株式会社設立
1996年 4月	日本語での情報検索サービス(サービス名: Yahoo! JAPAN)の提供を開始
1997年 11月	店頭登録銘柄として株式を公開
1999年 9月	オンライン・ショッピングサービス「Yahoo!ショッピング」および、オンライン・オークションサービス「Yahoo!オークション」を開始
2001年 5月	「Yahoo!オークション」の本人確認(有料化)開始
2001年 9月	ブロードバンド関連の総合サービス「Yahoo! BB」の商用サービス開始
2002年 3月	「Yahoo!ウォレット」を開始
2002年 4月	「Yahoo!オークション」のシステム利用料導入開始
2002年 4月	ブロードバンド電話サービス「BBフォン」の商用サービス開始
2002年 10月	月間100億ページビュー突破
2002年 11月	スポンサーサイトの掲載を開始
2003年 1月	国内初の個人間支払いサービス「Yahoo!ペイメント」(現「Yahoo!かんたん決済」)を開始
2003年 4月	オリジナルキャラクターを作成できる「Yahoo!アバター」を公開
2003年 10月	東京証券取引所 市場第一部へ上場
2003年 12月	動画コンテンツの総合サービス「Yahoo!動画」を公開
2004年 2月	(株)リクルートと合併で(株)インディバルを設立
2004年 3月	パソコンで検索、試聴できる「Yahoo!着メロ」を公開
2004年 3月	月間200億ページビュー突破
2004年 3月	「Yahoo! BB」加入者が400万人を突破
2004年 4月	求人情報サイト「Yahoo!リクナビ」を公開
2004年 5月	(財)日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会および「2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会」のオフィシャルパートナーを務めることを決定
2004年 7月	東京都主税局とともに全国で初めての「インターネット公売」を実施
2004年 7月	「Yahoo!クーポン」を公開
2004年 8月	短期単発アルバイト専門の求人求職マッチングサービス「ショットワークス」をスタート
2004年 8月	情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の認証を取得
2004年 9月	「Yahoo!ポイント」サービスを開始
2004年 9月	オンラインチケット販売サービス「Yahoo!チケット」を公開
2004年 10月	1日当たりのアクセス数が10億ページビュー突破

2004年 10月	「Yahoo! BB 光」を開始
2004年 11月	ファーストサーバ(株)を子会社化
2005年 1月	(株)アルプス社の事業を継承
2005年 1月	「Yahoo!保険」を開始
2005年 1月	「Yahoo!翻訳」を開始
2005年 2月	有料ダウンロード型音楽配信サービス「Yahoo!ミュージックダウンロード」をスタート
2005年 2月	福岡ドームのネーミング・ライツを取得
2005年 3月	「Yahoo!縁結び」を公開
2005年 3月	Yahoo!プレミアム会員ID数が500万IDを突破
2005年 5月	ブロードバンド向けオンラインイベント「Yahoo!ライブトーク」を開始
2005年 5月	政府の地球温暖化対策推進本部が推進する国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参画
2005年 6月	(株)インデックス、(株)コネクトテクノロジーズと共同でモバイルコマース専門の合併会社を設立することを発表
2005年 8月	フルサイズの音楽をいつでも無料で聴ける「Yahoo!ミュージック サウンドステーション」を公開
2005年 9月	災害時に備えた知識を提供する「Yahoo!災害情報」を公開
2005年 9月	証券仲介サービス「Yahoo!証券窓口」を公開
2005年 10月	(株)インフォプラントを子会社化
2005年 11月	(株)セブン-イレブン・ジャパンと包括業務提携に向けた検討を開始
2005年 12月	JALグループと包括提携契約を締結
2005年 12月	TVバンク(株)の事業運営を開始
2006年 1月	(株)リクルートとインターネットにおける国内最大規模の旅行関連サービスを本格開始
2006年 1月	「Yahoo!共同購入」を公開
2006年 2月	ソーシャル・ネットワーキング・サービス「Yahoo! 360° (仮名称)」(ベータ版)を公開
2006年 3月	「Yahoo!ブログ検索」(ベータ版)の提供を開始
2006年 3月	ソフトバンク(株)と携帯電話事業に関する業務提携について合意
2006年 3月	三井住友銀行グループとインターネット金融事業に関する業務・資本提携について合意
2006年 4月	Yahoo! JAPAN、サービス開始から10周年

会社概要

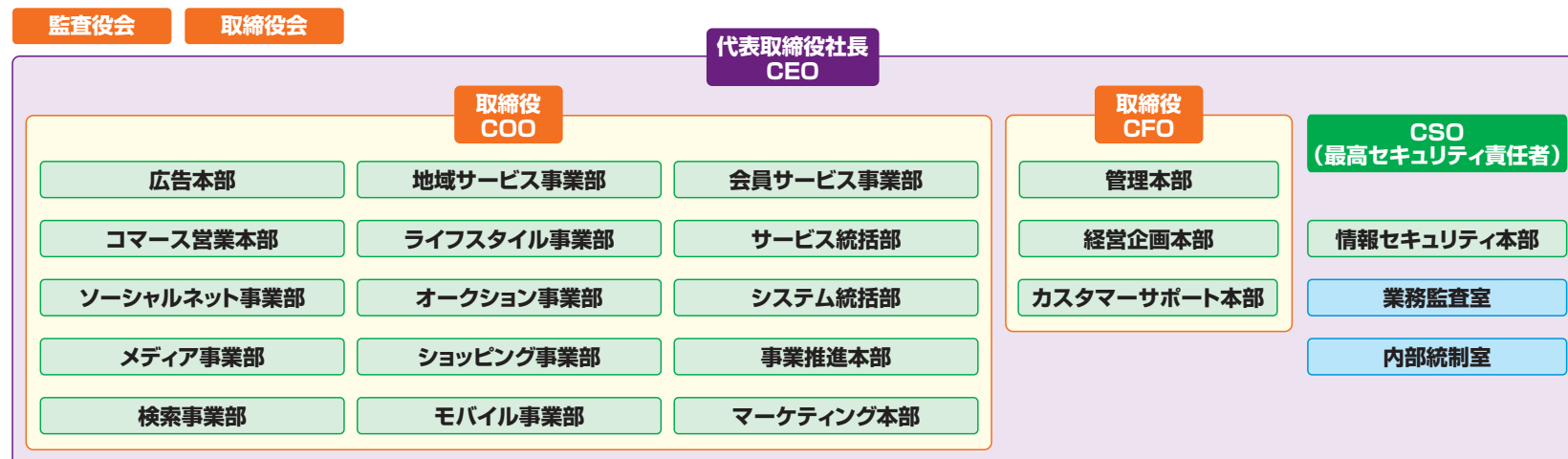
(2006年3月31日現在)

商号 ヤフー株式会社
 証券コード 4689
 ホームページ <http://www.yahoo.co.jp/>
 本社所在地 〒106-6182
 東京都港区六本木6-10-1
 六本木ヒルズ森タワー
 設立 1996年1月31日
 資本金 7,032百万円
 事業内容 インターネット上の広告事業
 イーコマース事業
 会員サービス事業
 その他事業
 従業員数 1,940名

(2006年6月22日現在)

役員
 代表取締役社長・CEO 井上 雅博
 取締役会長 孫 正義
 取締役 ジェリー・ヤン
 取締役・CFO 梶川 朗
 取締役・COO 喜多埜 裕明
 常勤監査役 須江 澄夫
 監査役 桐淵 利博
 監査役 佐野 光生
 監査役 金野 志保

組織図(2006年4月1日現在)



株主メモ

- 決算期 : 毎年3月31日
 定時株主総会 : 毎年6月
 株主名簿管理人 : 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 : 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 (同連絡先) : 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 ☎0120-232-711 (通話料無料)
 同取次所 : 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店
 公告掲載新聞 : 日本経済新聞

ご住所変更等のお手続きはお済みでしょうか？

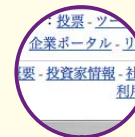
株式の事務手続き(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、端株買取請求書、名義書換請求書等)書類のご請求につきましては、株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受付しておりますので、ご利用ください。
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 ☎0120-244-479 (本店証券代行部)
 ☎0120-684-479 (大阪証券代行部)
 インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

IRサイトのご案内

当社では、Web上で「IR関連情報」として以下のような情報を公開しています。今後も、株主の皆様への情報開示の内容を充実し、迅速に開示を行っていく所存です。

Web上でご覧いただけるIR関連情報

- トップメッセージ
- 企業情報
- 財務情報
- 株主情報
- IRイベントスケジュール
- アナリスト・カバレッジ一覧
- 最新プレゼンテーション資料
- 月次開示情報
- よくあるご質問(FAQ)



 <http://www.yahoo.co.jp/>

2006年6月22日におこなった経営近況報告会の模様を下記のURLにてオンデマンドでご覧になることができます。

<http://ir.yahoo.co.jp/jp/holder/kinkyo/>

※ 当社のIR関連情報は、Yahoo! JAPANトップページの一番下にある「投資家情報」からご覧いただけます。



〒106-6182 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
電話 03-6440-6170